

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	CK	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	3	派遣国	カナダ
派遣大学	ヒューロン大学		
期 間	2024 年 9 月 5 日～ 2025 年 4 月 31 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他 (4 人部屋)					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	○	シャワー	○	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	◎
滞在費	約 (130000) 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(徒歩とバス) で、約 (15) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	約 25000 円	自炊用の材料
学用品購入費	約 2000 円	教科書など
交通費	約 3000 円	タクシー代
交際費	約 40000 円	友人とのお食事や飲み物代
その他	約 170000 円	家賃や日用品

合計

約 240000 円

*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

キャンパス付近は大学生がたくさん住んでいるため安全でした。そしてアパート付近も高校やスーパーがあるため夜でも人がいて治安が良かったです。近所に友達の家がなかったので帰りは一緒に帰っていました。一方、カナダは薬物が合法なのでダウントウンは薬物をやっている人がいました。歩きながら吸っている人もいたので匂いがきつかったです。また、ホームレスの方もところどころいました。特に夜は暗くて薬物をやっている人(ふらふら歩

きや叫んでいる人) やホームレスの方が多いので危険でした。基本ひとりではダウタウンに行かないようにしましたが、特に夜は一人でダウタウンは危険です。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ()		
加入期間	(8) ヶ月間	保険料	(約 110000) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	University Health Insurance Plan (UHIP)		
加入期間	(8) ヶ月間	保険料	(約 53000) 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町 (**オンタリオ州・ロンドン市**)

トロント市からバスで約3時間。ダウタウンには日本、韓国、中国、ベトナム、インド料理などの様々な他国を味わうことができるレストランが集まっている。大学の周りはヒューロン大学があるため、大学生であふれている。また、近くには学生寮がたくさんある。市バスは大学の学生証をかざして無料で乗ることができる。

【学業編】

1. 大学情報

[illegible]

2. 週間スケジュール

① (9)月～(12)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前			Japanese		Japanese
午後	Writing	Japanese	Writing	Centre for Global Studies	

② (1)月～(4)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	Centre for Global Studies	Centre for Global Studies	Japanese Writing	Centre for Global Studies	Japanese
午後	Philosophy				Writing

3. 履修内容

科目	Writing 1011F		
履修期間	2024 年 9 月－12 月	単位数	0.5
授業内容／形態	<授業形態> 主に、教授がスライドを使って進める一斉授業。時々ディスカッション。 ライティングに必要な基礎的な知識、レポートの書き方、情報収集の仕方など、主にライティングを強化したい生徒が受ける授業。		
成績	81%		
YCU 振替予定	科目	Advanced Practical English IIIb	
	単位数	2	
	担当教員	テリル ブレネン	

科目	Japanese 3650F		
履修期間	2024 年 9 月－12 月	単位数	0.5
授業内容／形態	<授業形態> 一斉授業&ディスカッション 日本の映画を観て、シーンを分析し、その時代の日本の姿を学ぶ。教授は日本人だが授業は英語で行われている。課題として映画を観たうえで授業では教授の講義と生徒が映画を観た感想をディスカッションする授業。		
成績	84%		
YCU 振替予定	科目	日本近代史 B	
	単位数	2	
	担当教員	金山 泰志	

科目	Japanese 2601A		
履修期間	2024 年 9 月－12 月	単位数	0.5
授業内容／形態	<授業形態> 一斉授業 主に日本の歴史を英語で学ぶ講義。縄文時代から始まり歴史を通して日本の文化、習慣、生活について学ぶ。動画や写真を用いたスライドが多く視覚的にもわかりやすい講義。		
成績	80%		
YCU 振替予定	科目	日本文化史	
	単位数	2	
	担当教員	松本 侑代	

科目	Centre for Global Studies 1021F		
履修期間	2024 年 9 月－12 月	単位数	0.5
授業内容／形態	<授業形態> 主に一斉授業とディスカッション 人類学的内容から現代の内容までの「文化」を学ぶ。課題として読み物やドキュメンタリーが課される。グループプレゼンテーションもある。		
成績	81%		
YCU 振替予定	科目	文化人類学	
	単位数	2	
	担当教員	井上 淳生	

科目	Centre for Global Studies 1023G		
履修期間	2025 年 1 月－4 月	単位数	0.5
授業内容／形態	<授業形態> 主に、教授がスライドを使って進める一斉授業、ディスカッション 国際開発について基礎的な知識を学ぶ授業。実際に行っている支援が現地にとってどのような影響を与えているのか、開発をするにあたって自らの立場を考える重要性を学ぶ。4 人でやるグループプレゼンテーションがある。		
成績	80%		
YCU 振替予定	科目	社会開発論	
	単位数	2	
	担当教員	楯 晃次	

科目	Philosophy 1370B		
履修期間	2025 年 1 月－4 月	単位数	0.5
授業内容／形態	<授業形態> 一斉授業 言語に焦点を当てて、言葉の定義や第一言語の起源を学ぶ。哲学的に言葉の概念・定義を理解する。グループワークはないがテストが3つある。		
成績	78%		
YCU 振替予定	科目	第二言語習得論	
	単位数	2	

	担当教員	関 佳奈
--	------	------

科目	Centre for Global Studies 2002G		
履修期間	2025 年 1 月－4 月	単位数	0.5
授業内容／形態	<授業形態> 一斉授業&ディスカッション 国際開発について発展した考えを学ぶ。開発はそれぞれの理論的視点、立場、生活経験、住んでいる場所によって異なることを学ぶ。グループワークはあり、3 人でのプレゼンテーションがある。		
成績	82%		
YCU 振替予定	科目	グローバル公共政策論	
	単位数	2	
	担当教員	上村 雄彦	

科目	Japanese 1650G		
履修期間	2025 年 1 月－4 月	単位数	0.5
授業内容／形態	<授業形態> 一斉授業 日本を様々な観点から捉えて、歴史的背景や文化的要など基本的な知識を学ぶ。テストはないがエッセイがある。日本に興味のある生徒が多く、教授が質問することに対して生徒の答えを聞くことに興味がある。		
成績	82%		
YCU 振替予定	科目	特講 (Religions in Japanese Culture)	
	単位数	2	
	担当教員	眞野 新也	

科目	Writing 1021G		
履修期間	2025 年 1 月－4 月	単位数	0.5
授業内容／形態	<授業形態> ディスカッション エッセイの書き方や文献を批判的に読む力をつける。教授がレクチャーをするときやディスカッションをするときもある。また、授業内でアクティビティをする。少人数クラスなので発言もしやすく、居心地がいい。教授は 1st semester と同じなのでアットホーム感がある。		
成績	80%		
YCU 振替予定	科目	Advanced Practical English I (Writing2)	
	単位数	2	

	担当教員	ニッタ キャメロン
--	------	-----------

<総括>

(1) 全体的な感想 *留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

この交換留学を通してまず、「多文化社会」や「多文化理解」の概念が私自身の中で変化しました。出国前、私が想像していたカナダは多文化主義の国であり、異なったバックグラウンドを持つ人々が人種関係なく交わっているイメージでした。実際、現地ではインドや中国などのアジア諸国や、アフリカ諸国など様々な国からの留学生や移民がいたため私の想像していた国際色豊かな国でした。しかし、私が想像していた人種関係なく交わっている国とは少し離れていました。インドや中国、韓国などのアジア圏の人々はアジア系の人々と交流することが多く、白人系は白人系、黒人系は黒人系の人々と最も交流していました。差別を感じることはありませんでしたが、人種ごとに固まることが多いと感じました。このことから「多文化社会」は異なる文化や価値観を持つ人々を理解して互いに尊重している社会のことを示していると同時に、異なる文化や価値観に関与しない、干渉しないとも捉えられると考えました。また、私が中国人のルームメイトと暮らした際に多文化理解や相互理解は他国の文化を理解し受け入れて、尊重するといった単純なことではないと改めて感じました。ルームメイトが中華料理を振舞ってくれた時、鶏の足が入った料理が出てきました。中国では鶏の足を食べることを理解していたはずなのに、実際食卓に出されたときに衝撃を受けました。中国の食文化を理解していたのにもかかわらず私自身食べることはできませんでした。その時に、私は中国文化を理解していたが、受け入れてはないのではと感じました。単に異なる文化を知っているだけでは多文化理解とは言えないし、実際に多文化を体験したとしても「多文化理解・相互理解」するには時間がかかると思いました相手の文化を理解し受け入れて、尊重することはとても複雑で難しいことだと考えました。

海外諸国からみた日本の姿も学びました。交換留学先のヒューロン大学では日本語を専攻する学部があり、日本語や日本文化について学ぶ授業がありました。その授業を履修した際、教授が生徒に「日本はどのようなイメージがあるか」という質問に対して最初に出た言葉が「polite」でした。日本を訪れた生徒が「電車が数分遅れただけですごく謝る」と言っていて、私が日本で心に引っかからなかったことにすごく感心していました。日本で当たり前だと思っていたことに興味を持ってくれたり、褒めてくれたり、感心してくれたりしたことに嬉しくなりました。同時に、日本での日常や日本文化に感謝しようと思いました。日本で暮らしているときにきっちりしていて嫌だと思っていたことに対しても、大切にしようと考えました。そしてカナダで暮らすことによって今まで気づかなかった日本の良さや海外の人々が日本のどのようなところを尊敬しているのかを学ぶことができました。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

交換留学での経験や学びで私は人とコミュニケーションを取ることや異なるバックグラウンドを持つ人々と関わるのが好きだと改めて認識できました。そして日本語や日本文化について知ってもらおうと嬉しいと感じました。将来、私は人とコミュニケーションを取る職に就きたいと思いました。具体的には、日本語教師や入国審査官に興味を持ちました。

交換留学中の土曜日に日本語学校のボランティアをしました。そこではカナダと日本のハーフの子どもや親の仕事の関係でカナダに住んでいる純日本人の子どもが日本語を勉強していました。日本語学校のボランティアに参加することで子どもたちに日本語を教えるやりがいと、日本と違う環境で一生懸命日本語を勉強する子どもたちの役に立ちたいと思いました。カナダで経験した苦労したことや日本が感心されているところを活かして、より楽しく子どもたちに日本語や日本文化を教えたいと思いました。

また、日本においても多文化共生を実現したいと考えるようになりました。多文化理解が難しいことを学び、少しでも多文化理解をできるようにしたいと思います。入国審査官は日本人の出入国の確認や日本に在留する外国人の審査はもちろん、地域公共団体と連携して外国人との共生社会と実現を目指しています。多文化理解の難しさを経験したからこそ日本における多文化共生に携わりたいと考えました。

自分が喜びを感じるコミュニケーションを通して異なるバックグラウンドを持つ人々と関わりたいです。また、日本で当たり前だと思っていたことが他国では当たり前ではないこと、多文化理解が単純ではないことを忘れずに人々と関わっていききたいです。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

交換留学をするにあたって、自分の留学での目標と海外で生活をするといった強い意志が必要だと思います。留学中に自分の興味関心が変わることは悪いことではないと思います。しかし、留学の目標をぶれさせないことで、どんなに大変なことがあってもやらなければならないという気持ちになります。留学を経て自分が何を学びたいのか、どのような留学生活を送りたいのかを出国前に具体的にするといいと思います。一人で海外で生活することは正直大変です。最初はわからないことだらけで英語の会話が理解できなくてホームシックになるかもしれません。私は日本にいる家族や友達とビデオ通話をしたり、日本食を食べたりして工夫をしていました。日本食が食べられるように、出国前に現地にある日本食レストランや近くのアジアンマーケットを調べてから行きました。少しでも日本を味わえるようにすると思います。そして友達ができてからは毎日のように友達と会った方が有意義な時間を過ごすことができます。積極的にキャンパスに行きましょう。分からなかった英語での会話が徐々に理解できるようになります。課題については、恥ずかしがらず教授に分からないこと聞き、友達に頼るといいと思います。特に、日本で書く英語レポートと現地での英語レポートは書き方や重要視する点が異なります。私は現地の友達に書き方を教えてもらって、添削もしてもらいました。留学における具体的な目標を立てること、日本を味わう工夫をすること、そして分からないことがあったら恥ずかしがらず積極的に聞くことが大切です。